

くみおどりでんしやう かい  
組踊 伝承の会

くみおどり 組踊をはじめとする琉球芸能の全国的な普及活動（特に子ども達との体験型の公演）を通して、ひとりでも多くの方に、沖縄の歴史や芸能に興味を持っていただく事と、琉球芸能の将来への継承と発展を支える事を目的に、琉球舞踊家・組踊立方の宮城茂雄と、制作の浅野剛が中心となり、結成しました。

えんもく はいやく  
演目・配役

わかしゅ かかず みちひこ  
若衆ぜい・・・嘉数道彦  
はまちどり みやぎ しげお  
浜千鳥・・・宮城茂雄

くみおどりのじゆらじんかねり  
組踊 執心 鐘入

しどう しまぶろみつはる  
指導・・・島袋光晴

なかぐすいかわまつい かかず みちひこ  
中城若松・・・嘉数道彦

やどうぬうんな みやぎ しげお  
宿の女・・・宮城茂雄

ざーし う ざじんいち  
座主・・・宇座仁一

くずう おやどまりきゆうげん  
小僧・・・親泊久玄

くずう ひらたともゆき  
小僧・・・平田智之

くずう たまき たくみ  
小僧・・・玉城匠

こうげん おおはまのぶあき  
後見・・・大浜暢明

びらてー  
地謡

うたさんしん しもじたけし  
歌三線・・・下地健士

うたさんしん なかだあきひろ  
歌三線・・・仲田知広

こと なか こ  
箏・・・名嘉ヨシ子

ふえ みやらまさこ  
笛・・・宮良政子

こきゅう もりたなつこ  
胡弓・・・森田夏子

たいこ きんじょうもりまつ  
太鼓・・・金城盛松



歌舞伎・能楽

「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」  
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

くみおどりでんしやう かい  
組踊 伝承の会

子どもたちのための  
組踊の世界



令和3年度 文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―

れいわ ねんど ぶんかげいじゆつ こどもいせいそうごうじぎやう じゆんかいこうえんじぎやう じっしにってい  
●令和3年度「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」実施日程

か すぎなみくりつたかいたひがししがこう 9月7日(火) 杉並区立高井戸東小学校	げつ ちばりつまくはりにしんじゅうがこう 11月8日(月) 千葉市立幕張西中学校
【日程調整中】しりつ なみきしやうがっこう 11月9日(火) 千葉市立新宿小学校	すい たかばしりつあきやまがこう 11月10日(水) 高萩市立秋山小学校
【日程調整中】しりつ おうなんしやうがこう 11月11日(木) 水戸市立鯉淵小学校	

おきなわ  
「沖縄」ってどこ？

おきなわけん にほん なんせい いち  
沖縄県は、日本の南西に位置しています。

いま ねんまえ りゅうきゅう くに  
今から約140年前までは、「琉球」という国でした。

りゅうきゅうこくおう す しゅりじょう ちゅうしん げいのう ぶんか ほってん  
琉球国王の住まいでもある「首里城」を中心に、芸能や文化も発展してきました。

りゅうきゅうげいのう くみおどり  
「琉球芸能・組踊」ってなに？

りゅうきゅう じだい げんざい う つ うた おど  
琉球の時代から現在まで受け継がれている歌や踊りを、

りゅうきゅうげいのう くわ せつめい  
「琉球芸能」といいます。詳しく説明すると、

うた さんしん おんがく りゅうきゅうこてん おんがく  
歌や三線の音楽を「琉球古典音楽」、

まい おど りゅうきゅうぶよう うた おど  
舞や踊りを「琉球舞踊」、歌や踊り、

とな ひょうげん げき くみおどり  
唱え（せりふ）で表現する劇を「組踊」いいます。

えんもくかいせつ  
演目解説

りゅうきゅうぶよう わかじゆ  
琉球舞踊「若衆ぜい」

わかじゆ だい しょうねん そで なが ふりそでいしやう き おど とくちやう  
若衆とは、10代の少年のことです。袖の長い振袖衣装を着て踊るのが特徴です。

はた ことうぐ ひょうげん  
「ぜい」という旗のような小道具をいて表現します。

こくおう そくいしき ひらう えんもく てんかたいい へいわ いわ おど  
国王の即位式に披露された演目のひとつで、天下泰平（平和）を祝う踊りです。

りゅうきゅうぶよう はまぢどり  
琉球舞踊「浜千鳥」

りゅうきゅう おきなわけん のち そうさく おど て てぶ とくちやう  
琉球から沖縄県となって後に、創作された踊りです。「こねり手」という手振りが特徴です。

たび で きび おも こころ うた  
旅に出た寂しさや、ふるさを思う心が歌われます。



おおさか 大阪  
とうきやう 東京

はかた 博多

かごしま 鹿児島



さんしん  
三線



ふえ  
笛



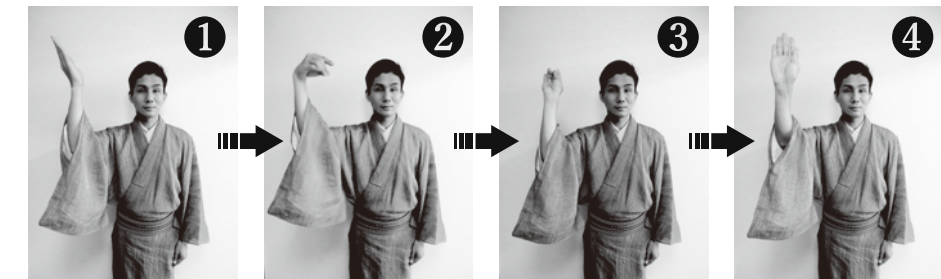
たいこ  
太鼓



こきゅう  
胡弓



こと  
箏



こねり手

くみおどり ひゅうひんかねり  
組踊「執心鐘入」

ねん しょうねん くみおどり さいしよ さくひん  
1719年に初演された組踊の最初の作品です。

わかやまけん どうじやうじ せつわ えいしやう う  
和歌山県にある「道成寺」の説話に影響を受けたといわれています。



びしょうねん りゅうきゅう ゆうめい なかくすくわかまつ たび しゅつぽつ ぼめん  
美少年として琉球で有名な「中城若松」が旅に出発する場面からはじまります。

たび とちやう ひ く いえ しゆくはく たの りゅうきゅう たい  
旅の途中で日が暮れてしまい、とある家に宿泊させてもらうように頼みます。その家には、  
むすめ やど おんな ひとり るすばん し おとこ ひと と でき ことわ  
娘（宿の女）が一人で留守番をしていて、知らない男の人を泊めることは出来ないと断ります。

あこが なかくすくわかまつ し むすめ わかまつ いえ まね い むすめ わかまつ こい  
しかし、憧れの中城若松だと知った娘は、若松を家に招き入れます。娘は、若松に恋をしました。

むすめ わかまつ かた あ い よ わかまつ たび とちやう むすめ こいごころ う い  
娘は若松と語り合いたいと言い寄りますが、若松は旅の途中で娘の恋心は受け入れられません。

ふたり おも ちが わかまつ いえ と だ  
二人の思いはどんとどんとずれ違い、ついに若松は家を飛び出します。

しつれん むすめ いか くる わかまつ お こわ わかまつ すえよし てら だす もと  
失恋した娘は、怒り狂って若松を追いかけます。怖くなった若松は、末吉の寺に助けを求め、

ざす じゅうしよく かね なか わかまつ かく  
座主（住職）は鐘の中に若松を隠します。

わかまつ こいごころ おさ むすめ すえよし てら たず わかまつ あ むすめ きやうらん  
若松への恋心が収まらない娘は、末吉の寺へ訪ねてきます。若松に会えない娘は、ついに狂乱して

おに へんか ざす こぞう ひっし いの おに むすめ と ふ  
「鬼」へと変化します。座主や小僧たちの必死の祈りで、鬼となった娘は説き伏せられます。

かんしやう  
鑑賞のポイント

- ① 物語前半は、中城若松と娘のやり取りが中心です。ゆったりとした歌と、唱え（せりふ）で展開されます。また、娘の心の変化（恋心から、失恋して、狂乱する）も見どころです。
- ② 物語後半は、末吉の寺の場面です。小僧たちのコミカルな演技と、娘の狂乱する表現、鬼に変化した娘と座主たちとの祈り場面は、見どころです。
- ③ 組踊は、舞台セットがありません。執心鐘入では、物語を象徴する「鐘」の大道具だけで表現します。観客の心でイメージを膨らませていただいで、旅先、家、寺の様子を思い浮かべて、お楽しみください。